

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年3月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000242
法人名	有限会社ウェルフェア
事業所名	グループホーム ひまわり2
所在地 (電話番号)	富岡市宇田77-2 (電 話) 0274-62-7321
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大渡町 1丁目10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 12月 15日

【情報提供票より】(21年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.5 人	

(2)建物概要

建物形態	併設／ <u>単独</u>	<u>新築</u> ／改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円		その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)			無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無 (有)		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円	
	夕食	300 円	おやつ	円	
	または1日当たり				

(4)利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数		9 名		男性 1 名		女性 8 名	
要介護1		2 名		要介護2		2 名	
要介護3		1 名		要介護4		3 名	
要介護5		0 名		要支援2		1 名	
年齢	平均	84 歳		最低	66 歳		最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・公立七日市病院・西毛病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は地域の住人であり、行政・地域とのかかわりが深いため、協力依頼等のお願いがしやすいという特徴がある。それは、理念に謳われている「地域の一員としての暮らしの中に、ゆったりと穏やかで安らぎのある生活」を具現化しやすい。また、住まいとしてのホームには塀もなく圧迫感が感じられず、家庭的な雰囲気がある。ロの字の廊下のあるホーム内は、歩いてもつき当たらず、閉塞感がない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果は全員で話し合った。地域密着型サービスとしての理念は職員全員で作り上げた。現状に即した介護計画の見直しでは月に1回のモニタリングを行い改善した。重度化や終末期に向けた方針の共有では指針を作成し、職員が共有している。入浴を楽しむことが出来る支援では、希望があれば入浴日の設定はある。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義は職員に共有され、前回の外部評価結果を全員で話し合った。自己評価は事務方が職員に相談し聞き取りながら作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一度定期的に開催している。区長の声かけにより地域の祭りに参加することが出来たり、近隣の高齢者の状況が報告されている。ホームからは現況等が報告されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームからは何でも話してもらえる環境に努力している。苦情窓口を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入している。ホームの行事等を回覧板に挟んで地域住民にお知らせしている。同じ地域に法人経営の介護施設があり地域の情報や地域の高齢者との連携もある。散歩や畑仕事等で近所の方々とのコミュニケーションを大切にしている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価結果を受けて、「地域の一員としての暮らしの中に、ゆったりと穏やかで安らぎのある生活」という理念を全職員が話し合い作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいところに掲示し、職員に周知している。管理者・職員は地域の一員として日頃行き会う地域の方々にホームを知ってもらうことから始めて、理念の実践をしていきたいと考えている。畑仕事中の地域の方と一緒にお茶を飲みながら、地域の暮らしという理念を意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者がこの地の人で地域との交流や介護施設を通して連携が出来ている。自治会に加入している。ホームの行事等を回覧板に挟んで地域住民にお知らせしている。散歩や畑仕事等で近所や地域とのコミュニケーションを大切にして、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は全員で話し合った。改善できることから改善に取り組んでいる。今回の自己評価は評価の意義を理解し、事務方が職員に相談しながら作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている。家族代表・市職員・区長・民生委員・事業所代表者・ケアマネジャーが参加している。施設からは入居状況やホームでの活動報告・インフルエンザ・防災や地域への協力依頼等が話し合わせられ、区長からは地域の情報が寄せられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャーが代行申請等で市役所に出向いたり、救護施設の入所協力等で情報交換もしている。地域包括支援センターに事業所の空き情報を提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	『ひまわり2便り』を発行している。家族の面会が多くその時には介護記録等を見てもらったり、利用者の健康状態や昼食時ならば一緒に食事をしてもらうこともある。受診報告や健康状態等変化があった場合は電話で随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置したり、家族が面会に来た時など意見を出しやすいように話掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「ホーム便り」で入職・退職者を紹介している。前管理者が急病で退職した時、家族にお知らせはしたが、利用者には混乱しないように配慮した。今では前管理者も訪ねてくれるようになり、関係は保たれている。入職者はリーダーが1ヶ月程度付いて教えている。リーダーが見極め夜勤に移り、一人立ちさせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなるべく参加できるように運営者は考えている。管理者研修・レベルアップ研修や地域密着型連絡協議会の南部ブロック研修・身体拘束廃止・群馬認知症アカデミー研修・ノロウイルス等の研修や地域包括の会議や富岡市の介護フェア2009等の多方面の研修に参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、グループホーム大会に参加している。レベルアップ研修の他、南部ブロック研修に参加し他のグループホームとの交流も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入所希望があれば、病院へは管理者とケアマネジャーが訪問している。在宅からは家族と本人に施設見学をしてもらい家族のように接しながら施設の雰囲気を感じてもらっている。管理者と職員が馴染みの関係を作るようにしている。体験利用の宿泊も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の過去の経験、特に戦時下でのことをみんなで共有し感動や悲しみながら、認め合って暮らしている。また、生け花の先生には経験を活かしお花を飾ってもらう等でお互い助け合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1の接遇とその時間を大切にして本人の意向を聞き取るようにしている。毎日のコミュニケーションやスキップの積み重ねから、安心感を持ってもらい、思いをくみ取るように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーが、本人・家族の意向の確認を行い、職員からも聞き取り、ミーティングで介護計画を作成している。家族の確認印はケアマネジャーがもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと体調の変化があった場合の随時の見直しがされている。また毎月モニタリングを行い、現状に即した新しい計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を聞き、買物や通院支援、入院時の選択、個人的な面会、お墓参りの支援を臨機応変に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則は入所前のかかりつけ医になっている。本人や家族に納得してもらい協力医(救急・歯科・皮膚科)への変更もある。往診は特に依頼していない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族から看取りの希望があり、事業所としての指針を作成している。施設として職員と指針は共有しているが、看取りの体制は万全ではない。今後は指針を基に体制作りが課題だと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけなどで利用者を傷つけない配慮をしているが、排せつ時の声かけにより、何人かで行くことがある。面会簿が個別でなく、他の面会者が分かるようになっている。利用者の個別の記録は人目に触れない場所に保管されている。	○	面会簿を個別にしたり、排せつ時の声かけを工夫してプライバシーの確保の徹底をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は決められてはいるが、その時の状況で時間をずらすことも出来る。テレビの好きな利用者へは見たい番組の時に声をかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者から希望を聞きだし立てている。食材は近所のスーパーが届けるが、野菜は畑で取れた新鮮なものを使っている。利用者に下ごしらえを手伝ってもらっている。職員が作り、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月・金曜日となっている。希望があれば入れるが、曜日の設定はある。ゆず湯や菖蒲湯で楽しんでもらっている。入浴できない場合はシャワー浴や清拭を行っている。	○	利用者の希望や入れそうなタイミングで入れるように、入浴日にしばられない取り組みを希望する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割としては、草むしり・野菜の収穫・テーブル拭き・下膳・コップの片付けをお願いしている。楽しみごとには外食・買物・畑仕事・花見・紅葉狩り・外食が用意され、気晴らしにはぶらっと外に出たり、ドライブによる支援がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や花を摘みに行ったり、畑仕事の近所の方とお茶を飲んだりして日常的に外に出掛ける支援がなされている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室とも施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回自主訓練と消防署立会いの訓練をしている。消防署立会い訓練には近隣に訓練実施のパンフレットを配布し、区長や民生委員・家族代表にも参加してもらい、協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックがされている。水分量は1200CCを目安にしている。水分摂取が少なければゼリーやジュースで支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は高い天井で開放的である。椅子やテーブル(こたつ式)・観葉植物・飾り棚・テレビが配置されている。犬と猫がホール内で利用者に可愛がられていて微笑ましかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていたなじみの物を持ちこんでもらっている。お位牌・整理ダンス・ベッド・作品・造花などで、一人ひとりの個性が出て居心地の良い部屋になっていた。		